

# 食の安全・安心に係る県民アンケート調査結果

和歌山県環境生活部県民局 食品・生活衛生課

## 1 調査の目的

「食」は生命の根源であり、人間の健康の維持に欠かすことのできないものです。しかし近年では、食に対する不安や不信が高まっています。このような中、県民の皆さまが、「食」についてどのような意識をお持ちなのかを把握し、今後の施策に反映させていくことを目的としてアンケート調査を実施しました。なお、同様の調査は3年ごとに実施しています（今回は6回目）。

## 2 調査期間

平成30年7月1日～平成30年11月11日

## 3 調査項目の概要

- |                                |          |
|--------------------------------|----------|
| ( 1 ) 食品に対する不安の有無とその要因         | <問1~問2>  |
| ( 2 ) 食品購入の基準について              | <問3>     |
| ( 3 ) 食品表示について                 | <問4>     |
| ( 4 ) いわゆる健康食品に対する考え方          | <問5>     |
| ( 5 ) 鶏肉の生食に対する考え方             | <問6>     |
| ( 6 ) 食の安全に関する知識について           | <問7>     |
| ( 7 ) 食の安全・安心に関する情報について        | <問8~9>   |
| ( 8 ) 「食の安全・安心わかやま」メールマガジンについて | <問10~11> |
| ( 9 ) 食品に関する認定・認証制度について        | <問12~13> |
| ( 10 ) 食の安全・安心確保のために重要な県の取組    | <問14>    |

## 4 調査の概要

### ( 1 ) 調査対象者・調査方法・回答者数

調査対象者：日常的に食品を購入されている県民の方

調査方法：①わかやま食の安全サポーター\*1等を調査員として、居住地域や職場などにおいてアンケート用紙の配付・回収をお願いしました。

②当課ホームページ上で、アンケートに回答していただきました。

③その他、和歌山県消費生活サポーター\*2、和歌山県食品表示ウォッチャー\*3、食に関するイベント、研修会等参加者等にアンケートへの回答を依頼しました。

回答者数：1,277名

#### \*1 「わかやま食の安全サポーター」

県民の食への関心を高め、食の安全や食生活の改善に関する知識等の普及を図り、消費者の自立を支援していただくために県が登録した方。

#### \*2 「和歌山県消費生活サポーター」

地域における啓発活動の担い手（消費者リーダー）として、身近な方に消費生活情報を伝達して消費者被害にあわないよう、地域で見守り活動をおこなっていただくために県が登録した方。

#### \*3 「和歌山県食品表示ウォッチャー」

食品表示の適正化を図るため、日常生活の中で、消費者の方が買い物の際に食品の表示をモニタリングしていただくために県が依頼した方。

( 2 ) **調査結果の見方**

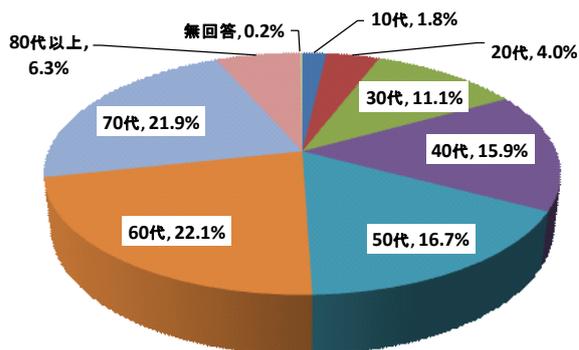
- ア. 回答の構成比 (%) は小数点以下第 2 位を四捨五入したため、比率の合計は、100%にならないことがあります。
- イ. グラフの中で「N」とあるのは、その質問の回答者の総数（無回答含む）を示しています。
- ウ. 複数回答の質問については、その回答の構成比の合計が100%を超える場合があります。

## ○調査対象者の概要 (N=1,277)

### A. 年齢構成

10代* : 1.8% (23人)	20代 : 4.0% (51人)
30代 : 11.1% (142人)	40代 : 15.9% (203人)
50代 : 16.7% (213人)	60代 : 22.1% (282人)
70代 : 21.9% (280人)	80代以上 : 6.3% (81人)
無回答 : 0.2% (2人)	

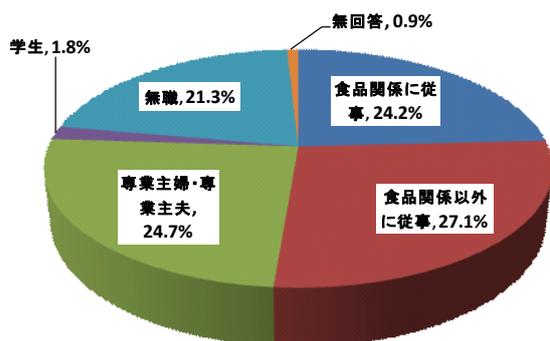
\*10代は、15歳～19歳。



### B. 職業別構成

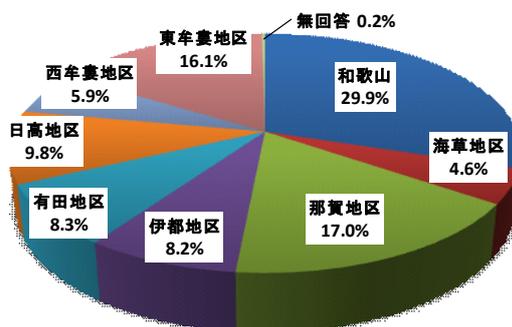
食品関係に従事* : 24.2% (309人)
食品関係以外に従事 : 27.1% (346人)
専業主婦・専業主夫 : 24.7% (316人)
学 生 : 1.8% (23人)
無 職 : 21.3% (272人)
無 回 答 : 0.9% (11人)

\*農業、漁業、畜産業、  
製造加工業、販売業、外食産業



### C. 地域別構成

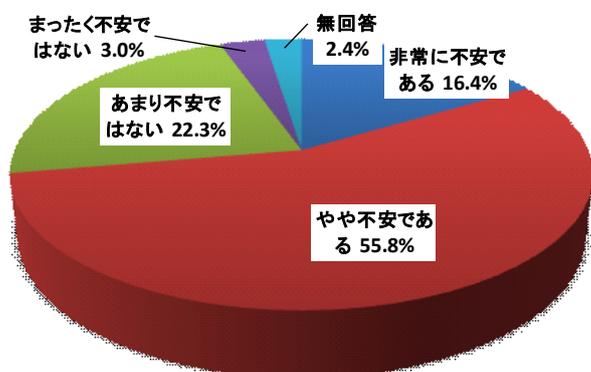
和歌山市 : 29.9% (382人)
海草地区 : 4.6% (59人)
那賀地区 : 17.0% (217人)
伊都地区 : 8.2% (105人)
有田地区 : 8.3% (106人)
日高地区 : 9.8% (125人)
西牟婁地区 : 5.9% (75人)
東牟婁地区 : 16.1% (205人)
無 回 答 : 0.2% (3人)



## 5 調査結果

### (1) 食品に対する不安の有無とその要因

問1. 食品の安全性に不安を感じていますか？（1つ選択）

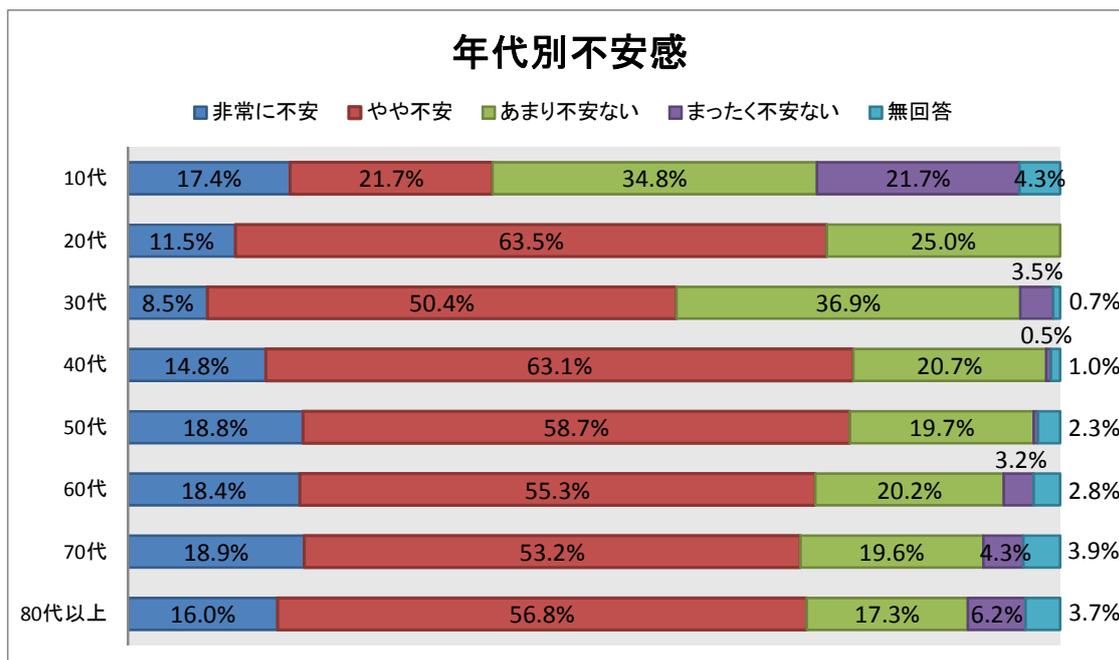


①非常に不安である	16.4%
②やや不安である	55.8%
③あまり不安ではない	22.3%
④まったく不安ではない	3.0%
⑤無回答	2.4%

(N = 1,277)

「非常に不安である」と答えた人が 16.4%、「やや不安である」と答えた人が 55.8%となり、2つを合わせると 72.2%の人が「不安である」という結果になりました。

なお、前回調査の「非常に不安である」と「やや不安である」を合わせた割合 74.7%と比べると、2.5ポイント減少しています。



(N = 1,275)

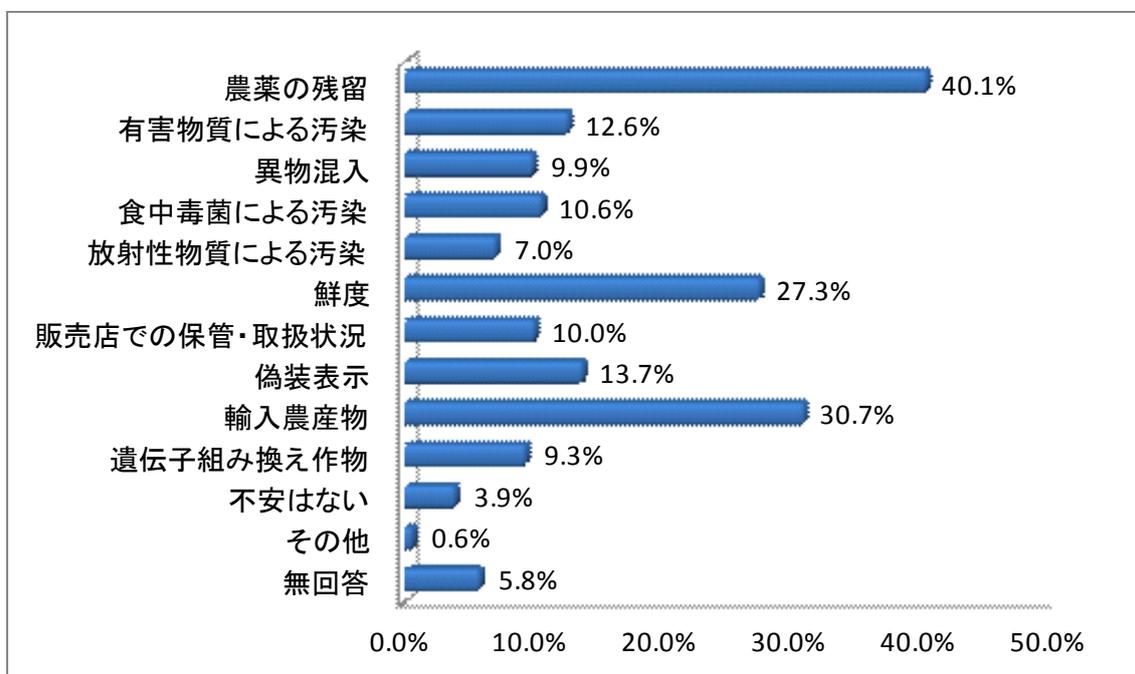
また、「不安である」と答えた人の割合を年代別にみたら、

10代：39.1%    20代：75.0%    30代：58.9%    40代：77.9%

50代：77.5%    60代：73.7%    70代：72.1%    80代以上：72.8%

となり、40代以上では7割以上の方が食の安全性に対して不安感を持っている結果となりました。

問2. 次の(1)～(5)のそれぞれの食品を購入する際、次にあげる項目で特に不安を感じているものはどれですか？  
 (1) 農産物(生鮮野菜・果物・米など)(2つ以内選択)



(N = 1,277)

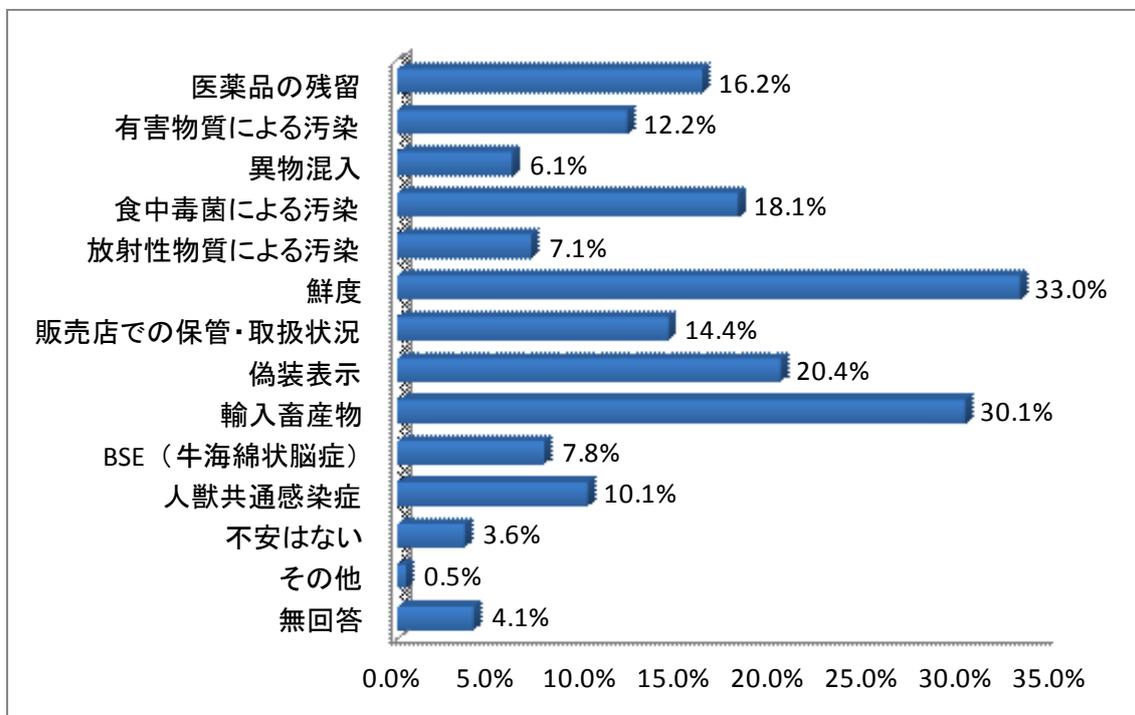
割合が高いものから順に、「農薬の残留」40.1%、「輸入農産物」30.7%、「鮮度」27.3%となっており、このうち「農薬の残留」と「輸入農産物」は前回の調査結果と同様に、高い割合となりました。

今回の特徴としては、前回の調査で割合が高かった「偽装表示」が大きく減少(H27: 27.0%→ H30: 13.7%)した一方で、今回新たに追加した項目である「鮮度」が3番目に入る結果となりました。

#### ○項目「その他」の具体的な記述内容(その他意見等含む)

- 無農薬は安心とよくいいますが、それがいいという風潮(20代)
- 野菜に虫が付いていないか。(40代)
- 家庭菜園のをいただいておりますので心配ございません。(80代)
- 海外の商品全てが不安という訳ではありません。日本の物でも危険と思われるものはあると思います。作物の作り方等がきちんとしているかの確認ができないことは不安がない訳ではありません。日本でも色々と問題になっていますので同じですが。(30代)
- 賞味期限(70代)
- 野菜、果物を新鮮に見せようとして不自然な外観、ワックスをかけていると聞いたことがある。(60代)

問2. 次の(1)～(5)のそれぞれの食品を購入する際、次にあげる項目で特に不安を感じているものはどれですか？  
(2) 畜産物(肉類・卵など)(2つ以内選択)



(N = 1,277)

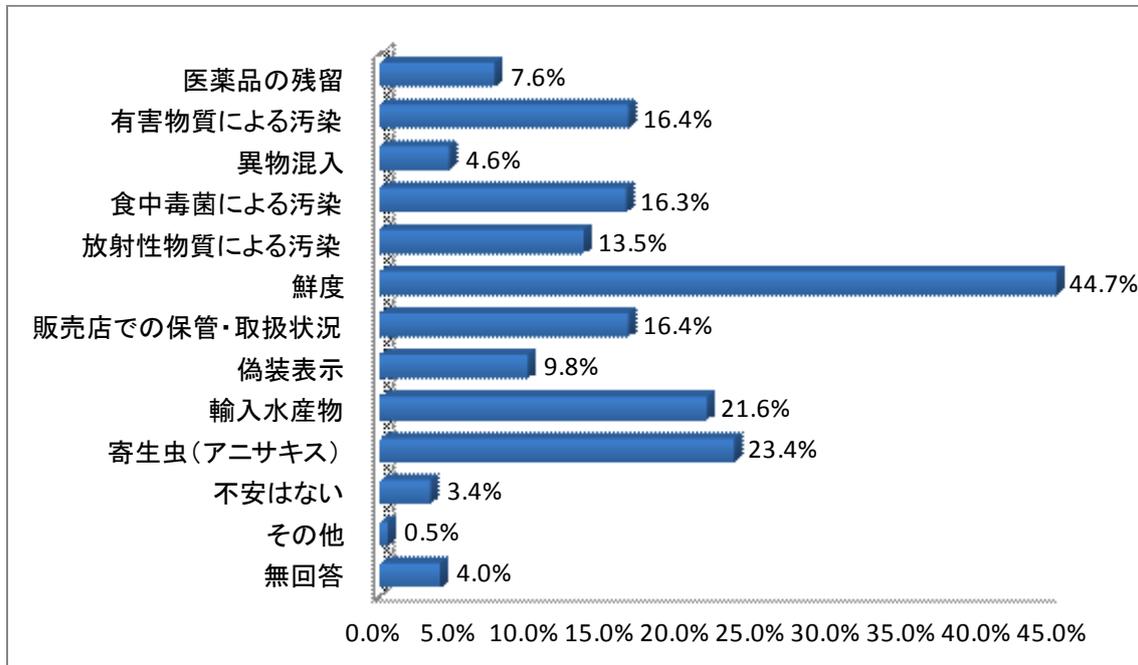
割合が高いものから順に、「鮮度」33.0%、「輸入畜産物」30.1%、「偽装表示」20.4%となっており、今回新たに追加した項目である「鮮度」が最も高い割合となりました。

今回の特徴としては、前回の調査で割合が高かった「偽装表示」(H27: 41.1%→ H30: 20.4%)、「人獣共通感染症」(H27: 27.5%→ H30: 10.1%)などの割合が大きく減少した一方で、「販売店での保管・取扱状況」(H27: 11.7%→ H30: 14.4%)の割合が増加しました。

#### ○項目「その他」の具体的な記述内容(その他意見等含む)

- 鶏卵の直売所の安全性。サルモネラ菌等、消毒していないのでは。(20代)
- 成長剤を投薬された肉類(30代)
- 人工的にやり過ぎること。(40代)
- 中国産(70代)

問2. 次の(1)～(5)のそれぞれの食品を購入する際、次にあげる項目で特に不安を感じているものはどれですか？  
(3) 水産物(鮮魚介類など)(2つ以内選択)



(N = 1,277)

割合が高いものから順に、「鮮度」44.7%、「寄生虫(アニサキス)」23.4%、「輸入水産物」21.6%となっており、前回の調査結果と同様に「鮮度」、「輸入水産物」が高い割合となりました。

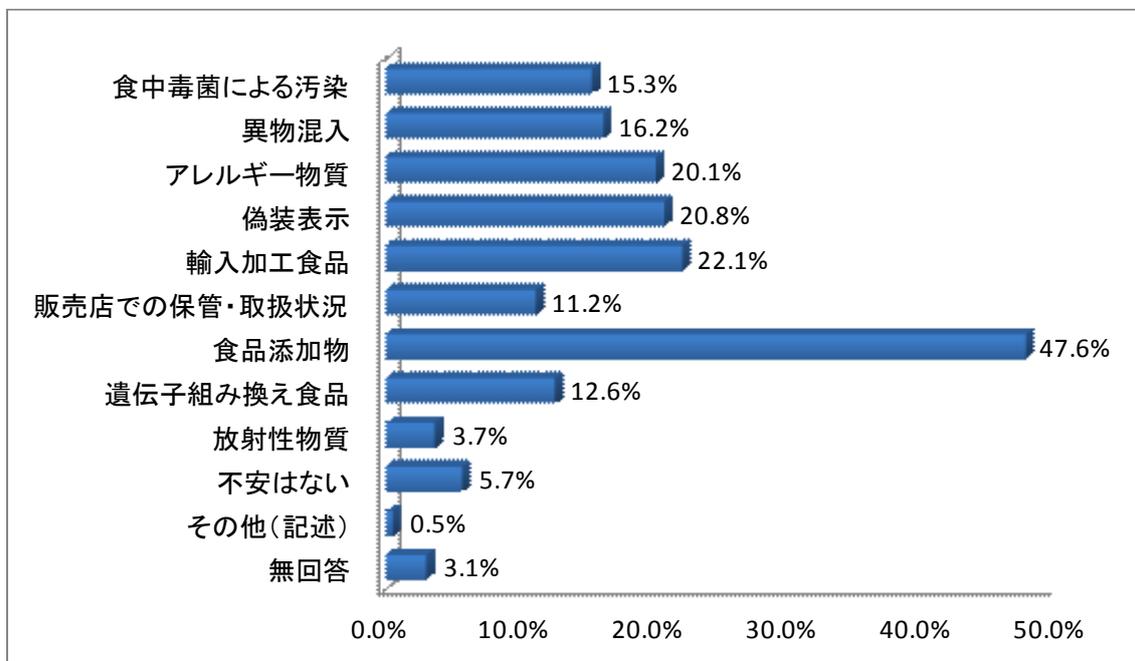
今回の特徴としては、前回の調査結果で2位であった「偽装表示」(H27: 28.6%→H30: 9.8%)の割合が大きく減少する一方、「寄生虫(アニサキス)」(H27: 15.7%→H30: 23.4%)の割合が増加しました。

○項目「その他」の具体的な記述内容(その他意見等含む)

- マイクロビーズ等の体内に取り込まれたプラスチック類(70代)
- 鮮度を確かめて購入するので不安はない。(80代)
- 気にしてない。(40代)

問2. 次の(1)～(5)のそれぞれの食品を購入する際、次にあげる項目で特に不安を感じているものはどれですか？

(4) 上記以外の加工食品(菓子・清涼飲料・漬物・麺類・ハム・乳製品・水産加工品など)(2つ以内選択)



(N = 1,277)

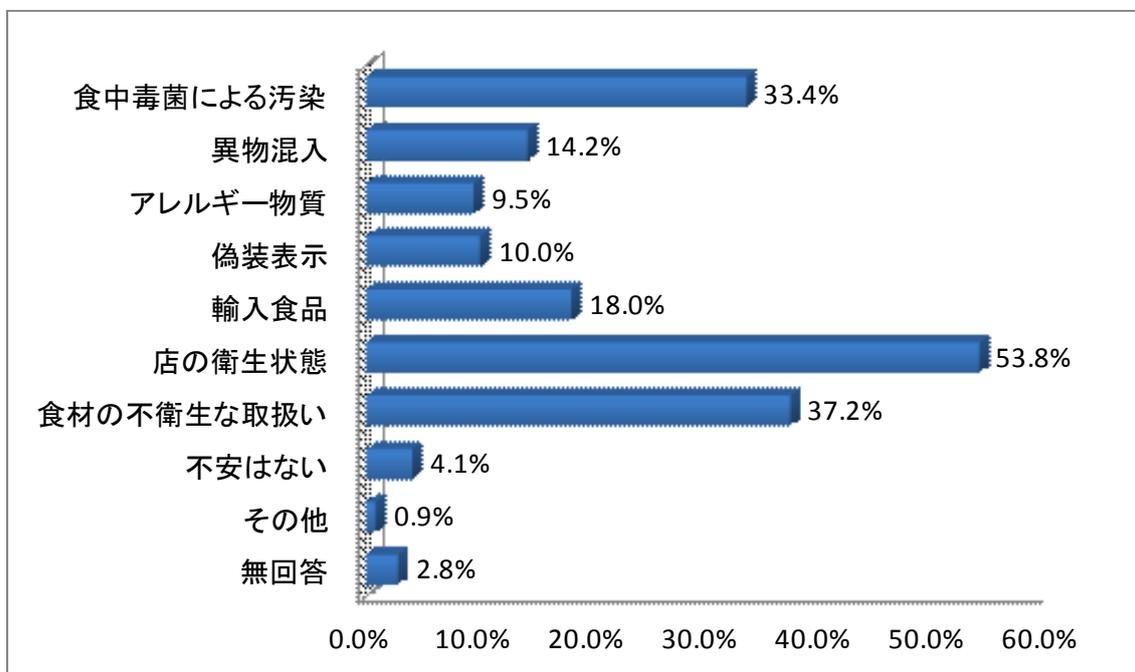
割合が高いものから順に、「食品添加物」47.6%、「輸入加工食品」22.1%、「偽装表示」20.8%となりましたが、なかでも「食品添加物」は前回の調査結果と同様に他と比較して特に高い割合となりました。

今回の特徴としては、「偽装表示」(H27: 30.7%→ H30: 20.8%)の割合が大きく減少する一方、「アレルギー物質」(H27: 14.3%→ H30: 20.1%)、「食中毒菌による汚染」(H27: 10.3%→ H30: 15.3%)、「販売店での保管・取扱状況」(H27: 4.7%→ H30: 11.2%)などの割合が増加しました。

#### ○項目「その他」の具体的な記述内容(その他意見等含む)

- ハムの安全性(20代男性)
- ハムに使用される亜硝酸塩が化学反応で発がん性物質が発生する。無添加の品物がどこでも手に入りにくい。(70代)
- 賞味期限(60代)
- 原材料(50代)

問2. 次の(1)～(5)のそれぞれの食品を購入する際、次にあげる項目で特に不安を感じているものはどれですか？  
(5) 飲食店等の外食で提供される食品(2つ以内選択)



(N = 1,277)

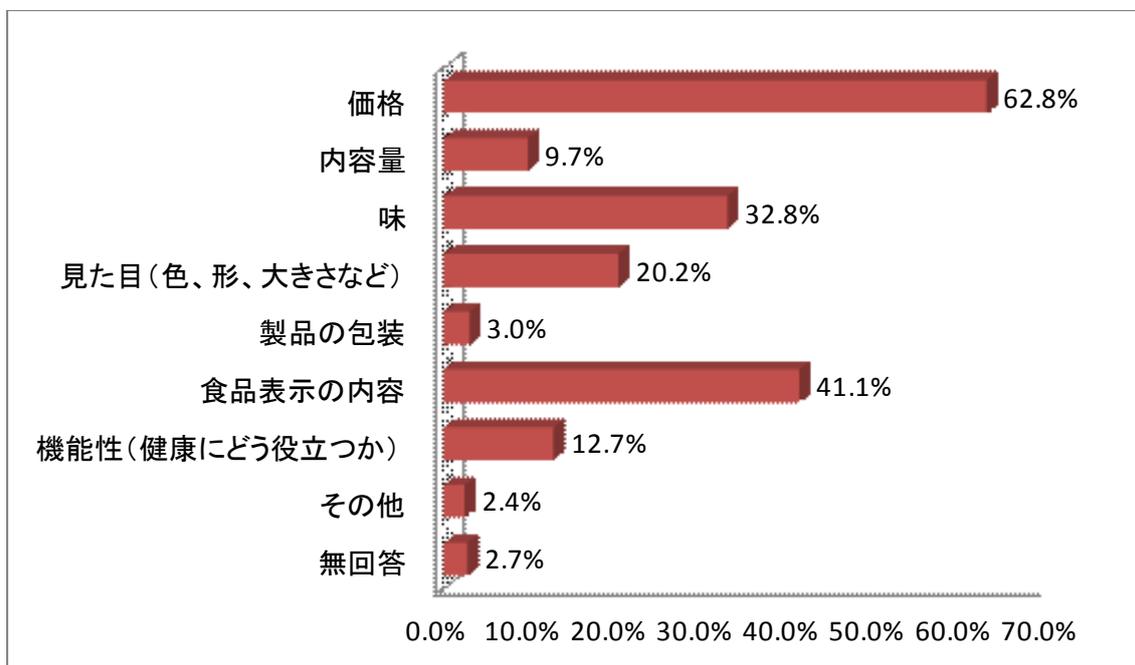
割合が高いものから順に、「店の衛生状態」53.8%、「食材の不衛生な取扱い」37.2%、「食中毒菌による汚染」33.4%となっており、前回の調査結果と同様にこの3項目が他と比較して特に高い割合となりました。

#### ○項目「その他」の具体的な記述内容(その他意見等含む)

- アルミホイルの使用(60代)
- 外食は塩分が高く味も濃すぎるので気を付けている。(70代)
- 外食は食材が加工された食品になっているので輸入の食品表示がなく(アレルギーがあるので)不安です(弁当も)。(70代)
- スタッフの食品表示に関する知識の無さ。(50代)
- 店内のトイレ手入れ、清掃記録などの有無(70代)
- 何が入っているのか分からないので怖い。(40代)
- 肉類が心配(いのししは恐ろしいです)(80代)
- 豚肉を使った料理はラクトパミンが心配。国内の使用は禁止されているが輸入はOKなので、輸入された豚を食材にした外食での不安は残る。(70代)

## (2) 食品購入の基準について

### 問3. 食品を購入する際に、何を基準に選んでいますか？（2つ以内選択）



(N = 1,277)

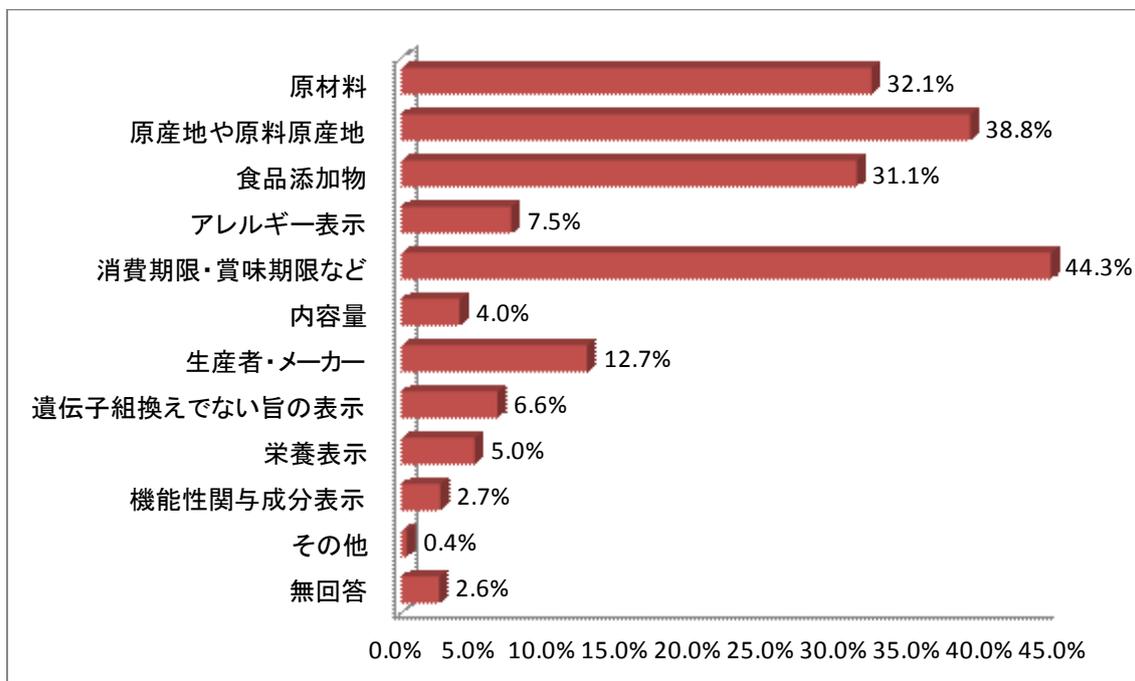
割合が高いものから順に、「価格」62.8%、「食品表示の内容」41.1%、「味」32.8%となっており、この3項目が他と比較して特に高い割合となりました。

#### ○項目「その他」の具体的な記述内容（その他意見等含む）

- 味や見た目より健康にどんな影響があるかチェックする。(70代)
- アレルギー物質(70代)
- 安全性(70代)
- 遺伝子組み換え、添加物(40代)
- 衛生的に良い環境であるか。(20代)
- 国産かどうか、添加物が入ってないか。(50代)
- 産地、国内製造(50代)
- 賞味・消費期限(10代)
- 生物・加工品に分けて重視は異なる。(70代)
- 鮮度、産地(40代)
- 鮮度も含めた見た目と価格が妥当かどうか。(50代)
- 中国産(30代)
- メーカー、生産者の姿勢の分かるもの。(50代)
- 目玉商品の表示内容(70代)

### (3) 食品表示について

問4. 食品表示のどの項目を重視して食品を選んでいますか？（2つ以内選択）



(N = 1,277)

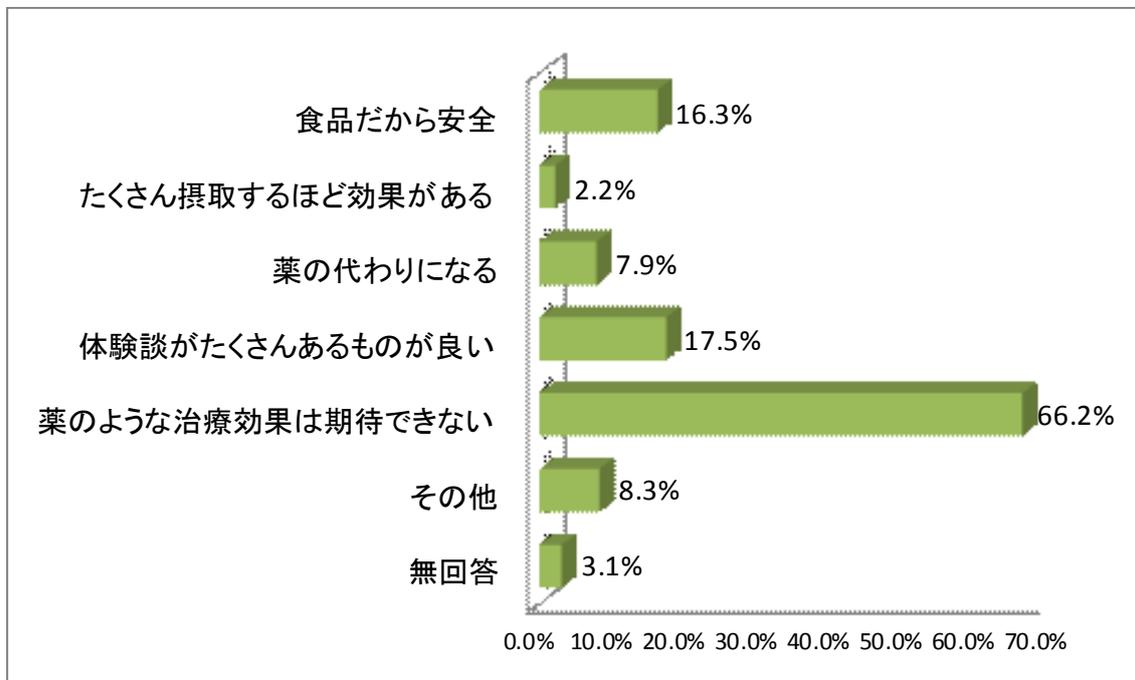
多いものから順に、「消費期限・賞味期限など」44.3%、「原産地や原料原産地」38.8%、「原材料」32.1%、「食品添加物」31.1%となりました。

#### ○項目「その他」の具体的な記述内容（その他意見等含む）

- 国内産（50代）
- 自分の知識との判断（70代）
- 孫が卵アレルギーなので含まれていないか注意（70代）

#### (4) いわゆる健康食品に対する考え方

問5. サプリメントなどの健康食品について、どのようなイメージをお持ちですか？  
(複数選択)



(N = 1,277)

サプリメントなどの健康食品については、多くの人が「薬のような治療効果は期待できない」(66.2%)とのイメージをお持ちである一方、「体験談がたくさんあるものが良い」(17.5%)とお考えの人も少なくないという結果になりました。

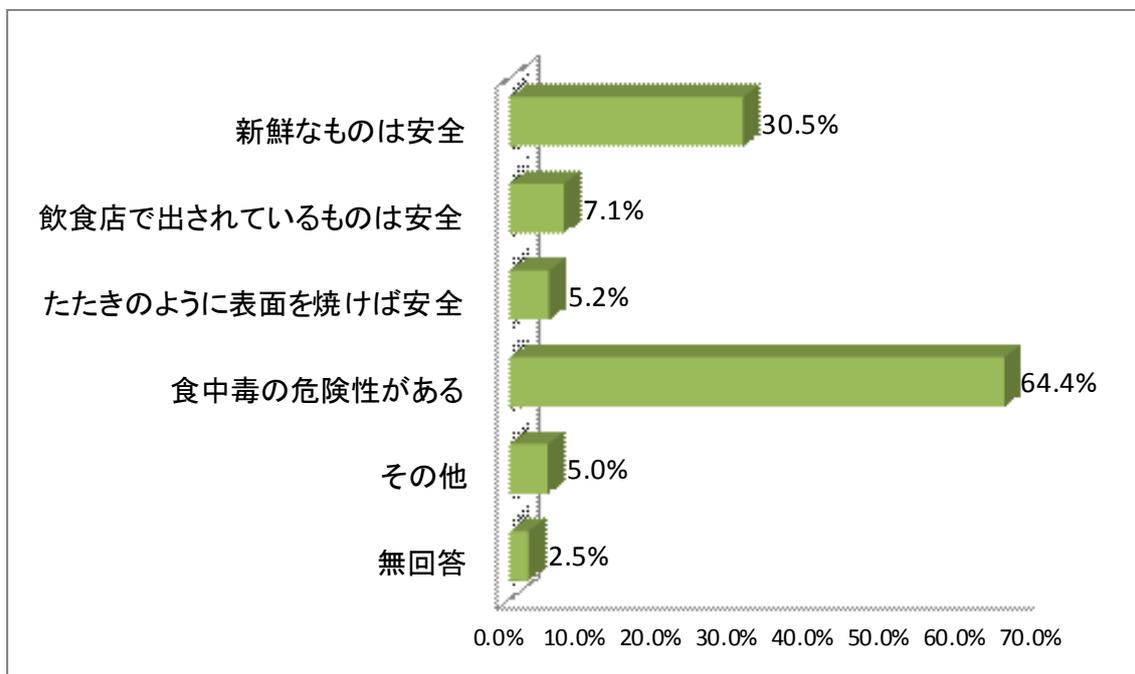
#### ○項目「その他」の具体的な記述内容（その他意見等含む）

- CMされる程の効果がないのでは。(60代)
- 味気ない、機械的(30代)
- あまり期待しない。(70代)
- 安全性が不安(40代)
- 一切信用していないので使うつもりない。(70代)
- 胃に優しいか?(70代)
- 栄養に足りないものを補助できる。(60代)
- 栄養は食品から摂るものだからサプリは飲まない。薬とは違う。(40代)
- 過大な宣伝はやめるべき。(70代)
- 薬ではないので組み合わせをあまり気にしなくて済む。食品からとるのが難しい栄養を楽にとることができる。(40代)
- 効果・効能は保証されたものでないため、気休めのものである。(20代)
- 高齢になれば必要になるかもしれない。健康寿命延ばすために。(60代)
- 個人が求める要件によるので、殆ど使用しない。(70代)
- コマーシャルが多すぎます。(60代)
- 最近のものだから今後どんな影響が出るかわからない。(30代)
- サプリメント、健康食品には興味が無いです。(50代)
- サプリメントに知識が少なく今は使用することを考えてない。(60代)

- サプリメントの過大評価は禁物であり薬の代わりにも食品の代わりにもならないと思う、色々次々に出されてくるので健康ブームにあやかった商法であると思う。どれを信じていいのかわからない。(60代)
- サプリメントの宣伝にあたかも病状の改善ができるかのような文言が表示されており信用できない。(70代)
- サプリメントは安全という思い込みもあるが長期使用した場合、害になることはないか気になる。(50代)
- サプリメントは飲む習慣もないので、良いのかなと思います。生野菜や食品で栄養を摂りたいです。(30代)
- 残留農薬や使用している物によっては害になる。体の中の足りない栄養素を補えるのか。肝臓の負担になる。信用できない会社が多い。(50代)
- 自分がいま飲んでいる薬との効果を考え使用 (70代)
- 自分の体質に合わないものもある。(60代)
- 重複利用で肝臓への負担が増す。(60代)
- 将来的な体への影響はどうか。(40代)
- 食事で摂りきれないものの補助 (あくまで補助) (20代)
- 食品から摂取するのが一番だと思うがとれない分はサプリに頼ってもよいと思うがサプリは嫌い。(60代)
- 人体に有害 (50代)
- 新聞広告の多さに驚く、食物を口から摂ることを一番に考える。(70代)
- 数種のサプリメントを試用してみたがどれも効果が得られていない。(80代)
- 正式な薬でないので副作用が心配、人によって効果は違うので皆効果あると思わない、値段も高いので買ったことがない。(80代)
- 摂取量に注意 (60代)
- 宣伝が多すぎてかえって不信感が出る。(60代)
- 体験談がよく書かれているが信用していない。(60代)
- 体験談に薬以上に効果があったと宣伝しているのは、会社側の作為が感じられる。(80代)
- 体内に入ってくるから量、用量が大切と思う。摂りすぎに特に注意したい。(50代)
- ただの気休め、しっかり食べ物から摂取する方が良い。(50代)
- 治療効果は期待できませんが、補助食品としてはありかも。(60代)
- 天然由来のものは安全かな? (70代)
- 優良誤認スレスレの広告が多い。(50代)
- 原料原産地、製造地、原産地に、中華人民共和国、大韓民国、北朝鮮人民共和国が入っていたら、どうしよう。(40代)
- 薬との飲み合わせ、長期間飲まなければならない、種類が多すぎて選べない。(60代)
- 薬のように厳しい規制がないので、よほど吟味しないと利用できない。(60代)

## (5) 鶏肉の生食に対する考え方

問6. 鶏肉の生食について、どのような考えをお持ちですか？（複数選択）



(N = 1,277)

鶏肉の生食に対しては、多くの人（64.4%）が「食中毒の危険性がある」との正しい認識をお持ちでしたが、一方で、「新鮮なものは安全」30.5%、「たたきのように表面を焼けば安全」5.2%、「飲食店で出されているものは安全」7.1%という結果になりました。

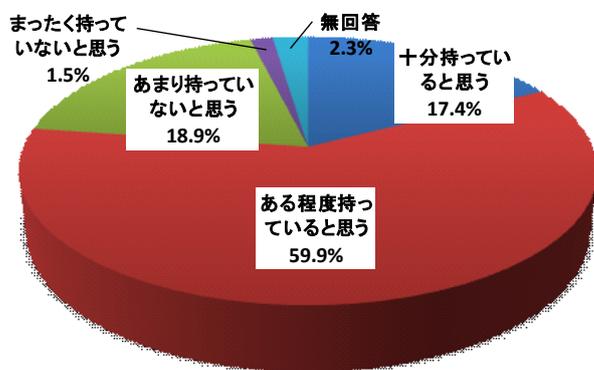
### ○項目「その他」の具体的な記述内容（その他意見等含む）

- 汚染されています。食べてはいけません。（70代）
- 外国産は危険があるように思う。（70代）
- 店が自信あるなら出していいと思う。（30代）
- 家族や知り合いで食中毒になった人がいるので、あまり食したいとは思わない。（70代）
- 家庭でも飲食店でも新鮮かの判断は素人では無理、生のものは健康害する恐れ大である。（70代）
- 完全な加熱が必要（70代）
- カンピロバクターの危険性があるので提供すべきでない。（40代）
- きちんとした認可を受けていけば安全（20代）
- 怖くて絶対食べたくない。（50代）
- 処理がしっかりしていると安全（40代）
- 新鮮かどうかはよくわからない、熱を必ず通して食べる。（60代）
- 新鮮なものなら食べたいが大丈夫かと思ってしまう。（30代）
- 生産者・加工者の取り組み。（40代）
- 生食可と表示されていけば安全（50代）
- 生食の取り扱いをもっと厳しく規制すべき。（80代）
- 大変危険性がある（ギランバレー症候群になる恐れあり）。（50代）
- 調理に不安（70代）
- と殺からの選定（70代）
- 鶏に与えている餌が心配（80代）

- 鶏肉に限らず食肉の生食はしないと決めている。(70代)
- 鶏肉は傷みが早いので冷蔵庫内でも注意の肉のため、生食は危険です。(60代)
- 鶏肉は苦手だが特に生では絶対食べない、生卵も食べない。(60代)
- 生肉はダメ、全て火を通そう。(70代)
- 廃止させるべき。(20代)
- 火を通すことを心掛けている、まな板包丁の消毒(70代)

## (6) 食の安全に関する知識について

問7. 食品の安全な取扱い方や選び方など、食の安全に関する基礎的な知識を持っていると思いますか？（1つ選択）

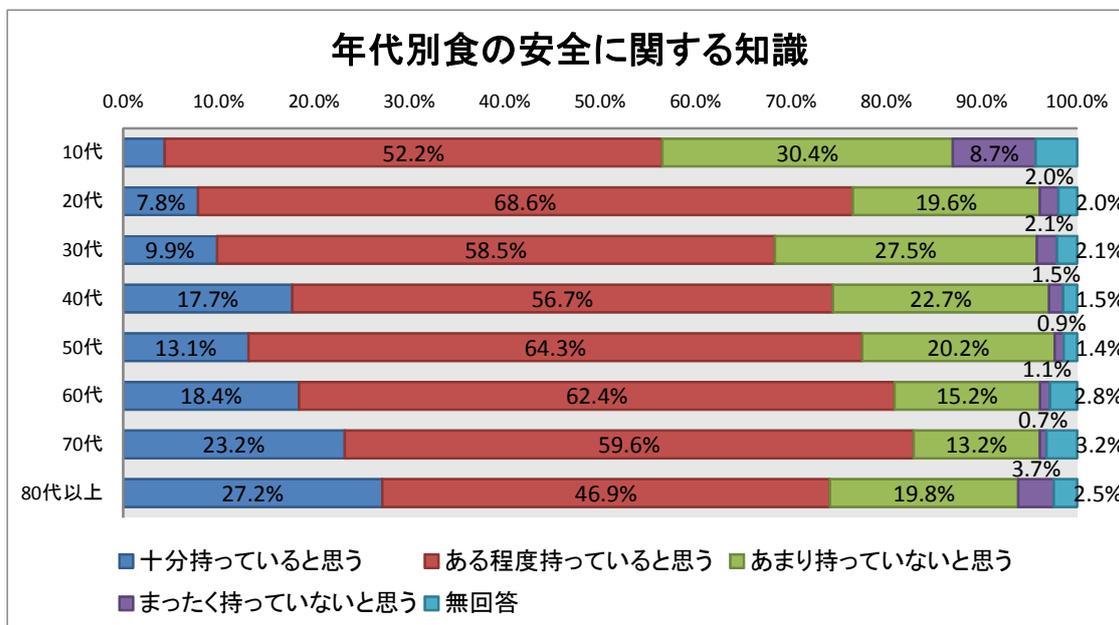


- ① 十分持っていると思う 17.4%
- ② ある程度持っていると思う 59.9%
- ③ あまり持っていないと思う 18.9%
- ④ まったく持っていないと思う 1.5%
- ⑤ 無回答 2.3%

(N = 1,277)

食の安全に関する基礎的な知識について、「十分持っていると思う」17.4%、「ある程度持っていると思う」59.9%となり、この2つを合わせた77.3%の人が「基礎的な知識を持っていると思う」という結果になりました。

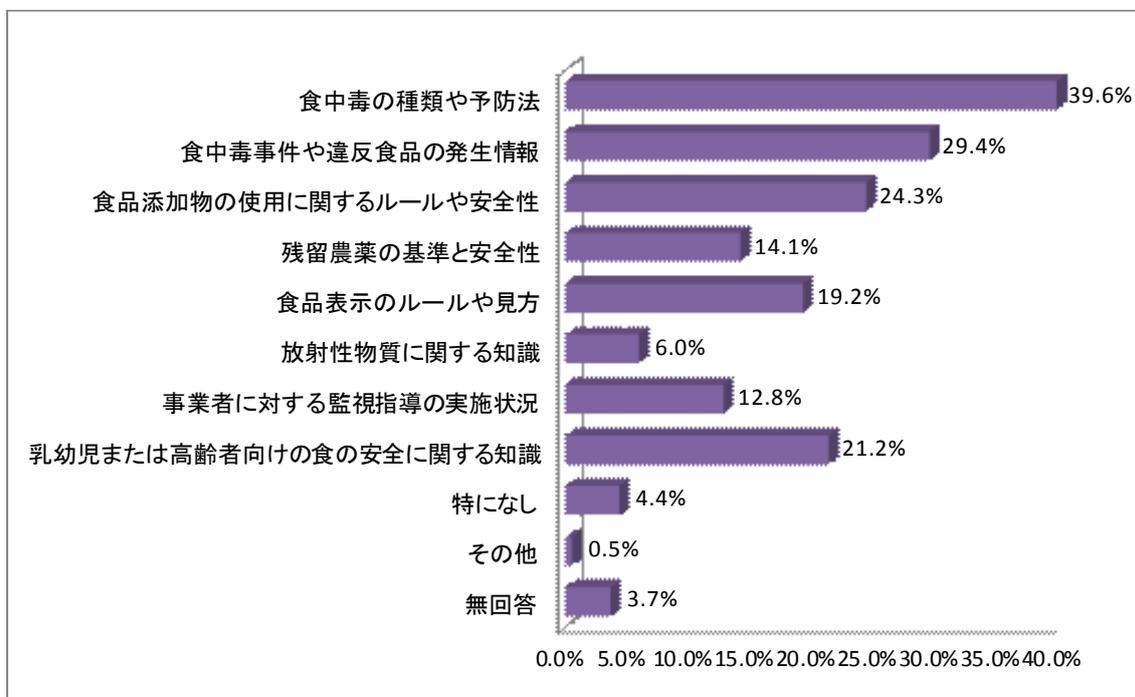
過去の調査では、「基礎的な知識を持っていると思う」人の割合は調査ごとに低下傾向（H18：68.0%、H21：63.7%、H24：59.2%、H27：60.3%、）にありましたが、今回は初めて増加に転じた前回調査に続いて増加となりました。



(N = 1,275)

## (7) 食の安全・安心に関する情報について

問8. 県では、食品の検査結果や食中毒注意報\*をホームページやメールマガジンで提供していますが、食の安全・安心について特に発信してほしい情報は何か？  
(2つ以内選択)



(N = 1,277)

多いものから順に、「食中毒の種類や予防法」39.6%、「食中毒事件や違反食品の発生情報」29.4%、「食品添加物のルールや安全性」24.3%となっており、前回の調査結果と同様にこの3項目が他と比較して高い割合となりました。

また、今回の調査で新たに追加した項目である「乳幼児または高齢者向けの食の安全に関する知識」については21.2%となっており、上記3項目について4番目となっています。

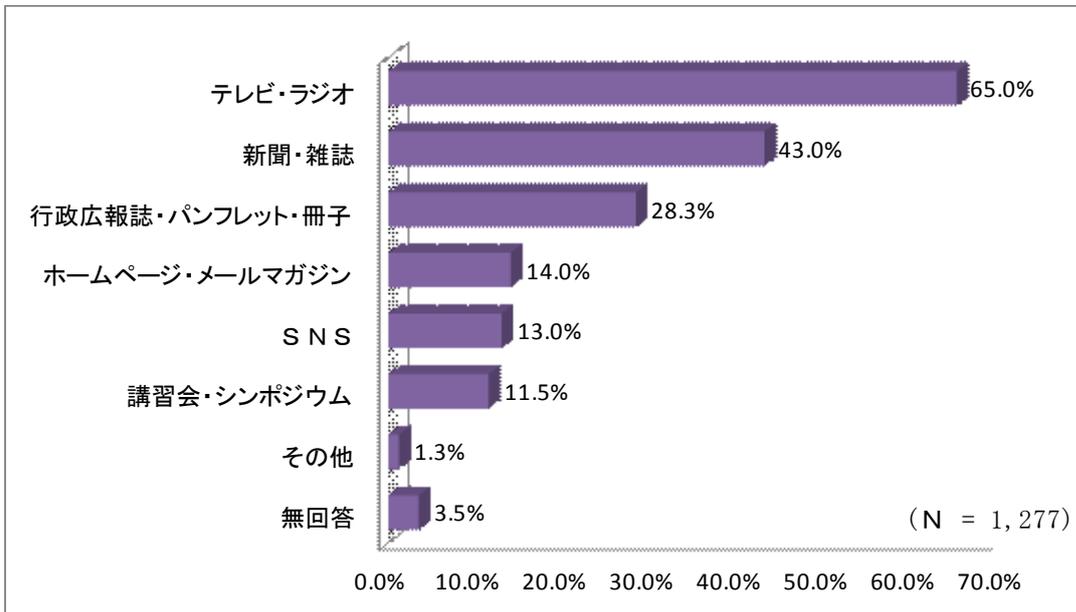
### \*「食中毒注意報」

細菌性食中毒が発生しやすい気象状況になったとき、消費者及び食品関係者に対して、食品の適正な取扱い等について注意喚起を行うことで、未然に食中毒の発生を防止することを目的として発令しています。

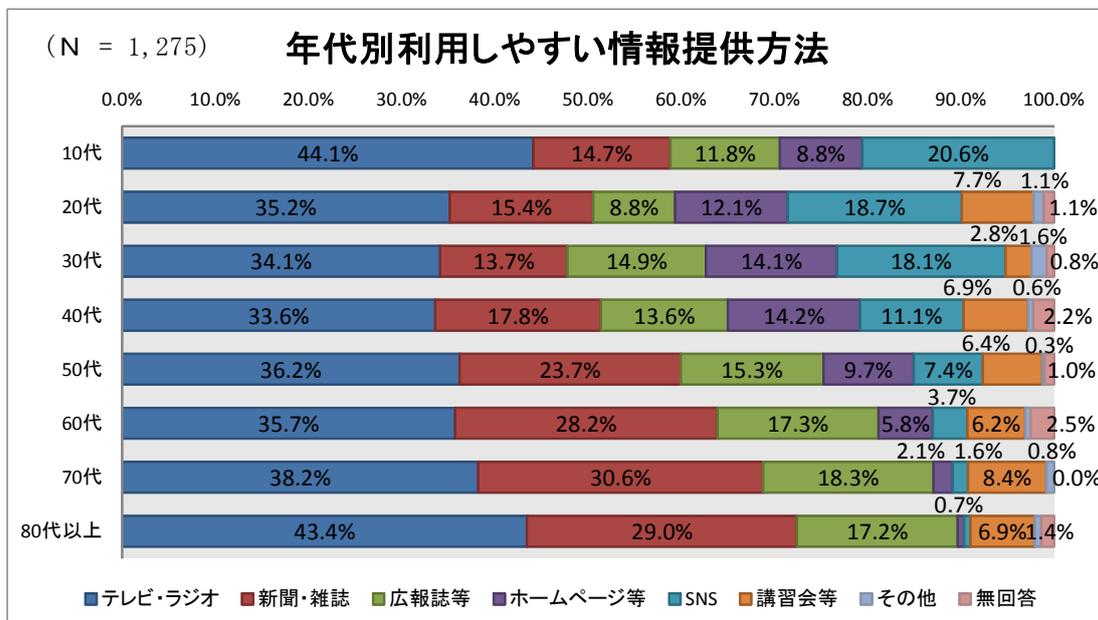
### ○項目「その他」の具体的な記述内容（その他意見等含む）

- 栄養の効果的な摂取方法（40代）
- 海外との比較（40代）
- 常時進捗状況の発信は大切（20代）
- 生産者の名前（80代）
- 地域性のある情報（水質汚濁情報、個別事業者別食中毒発生情報、事業者別監査結果情報など）をタイムリーに発信し、かつその情報は保存し、いつでもだれでも検索できるようにしてほしい。（50代）

問9. 食の安全・安心に関する情報は、どのような方法で提供されれば利用しやすいですか？（2つ以内選択）



多いものから順に、「テレビ・ラジオ」65.0%、「新聞・雑誌」43.0%、「行政広報誌・パンフレット・冊子」28.3%という結果になりました。また、年代が低い人ほど「SNS」や「ホームページ等」等の電子媒体を、年代が高い人ほど「新聞・雑誌」、「行政広報誌・パンフレット・冊子」等の紙媒体を選択する傾向がありました。



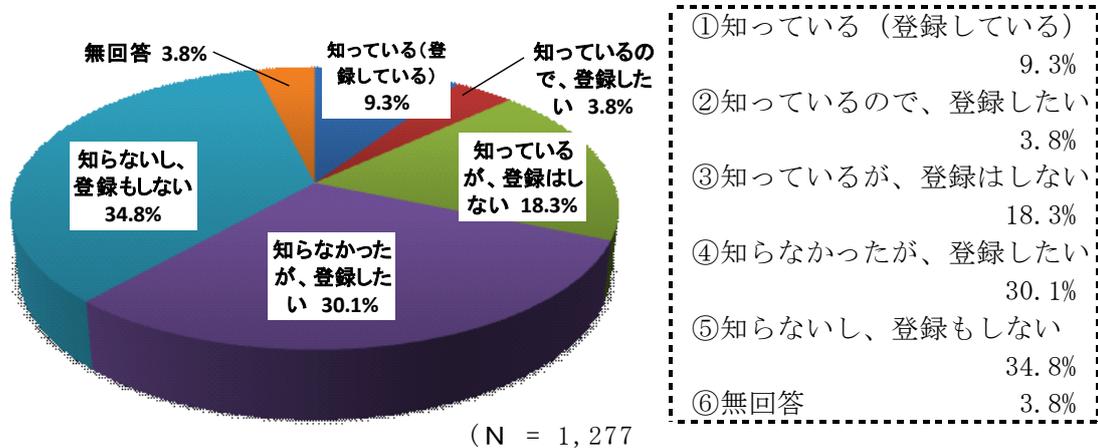
○項目「その他」の具体的な記述内容（その他意見等含む）

- WEB ニュース（30代）
- SNS を利用した方が拡散されやすい。（20代）
- アナログ人間にとって情報は収集しにくい。（70代）

- 安価な方法で繰り返し、広報に 100%はないと思います。(70代)
- 医師 (40代)
- 行政広報誌は読む人と読まない人がありますが、それ以外の方法だと信用性の問題があると思います。サプリメントの広告などと同じで乱発すると何を信じていいかわかりにくくなる。(30代)
- 市民生協で添加物の学習会をしました。分かりやすく参考になりました。(70代)
- 食の安全を示す許可証を販売物ごとに展示。(80代)
- 全ての衛生管理などの情報は HACCP など国際基準に従って発信してほしい、どこで提供されても答えがバラバラで困る。(30代)

(8) 食の安全・安心わかやまメールマガジンについて

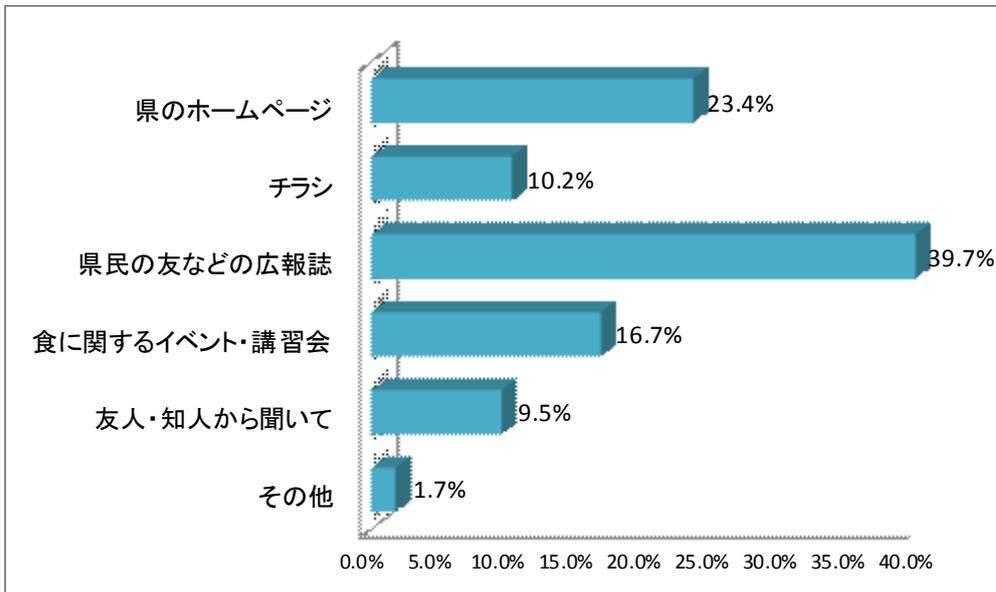
問10. 県が発行する「食の安全・安心わかやま」メールマガジンをご存知ですか？  
(1つ選択)



メールマガジンを「知っている」と回答した人は 31.4% (H27 : 26.4%)、「知らない」と回答した人は 64.9% (H27 : 70.2%) という結果になり、前回の調査結果より認知度は上がっているが、まだ6割以上の方がご存じでないという結果になりました。

また、メールマガジンを「登録している」と回答した人は9.3% (H27 : 4.5%)、「登録したい」と回答した人は 33.9% (H27 : 31.5%) であり、前回の調査結果より増加しています。

問11. 「食の安全・安心わかやま」メールマガジンをどのようにして知りましたか？  
(1つ選択) (問10. で①②③を選択した方のみ回答)



(N = 401)

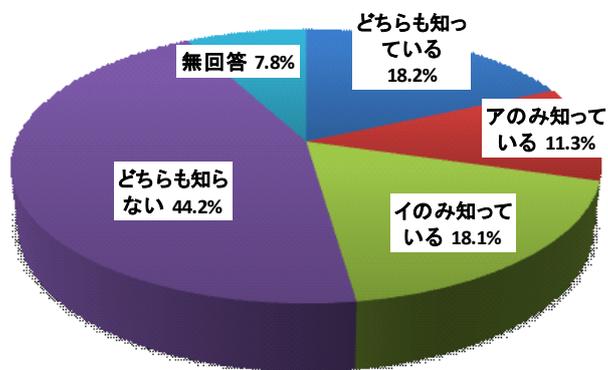
問10で「メールマガジンを知っている」と回答した人のうち、多いものから順に「県民の友などの広報誌」39.7%、「県のホームページ」23.4%、「食に関するイベント・講習会」16.7%という結果になりました。

今回の特徴としては、「県民の友などの広報誌」(H27: 32.8%→H30: 39.7%)、「チラシ」(H27: 4.9%→H30: 10.2%)の割合が増加していますが、これは色々な機会での情報発信やパンフレットの配布といった啓発活動の成果と思われます。

なお、問9の「利用しやすい情報の提供方法」でも、「行政広報誌・パンフレット・冊子」は3番目に割合が高かった項目となっています。

(9) 食品に関する認定・認証制度について

問12. 次の2つの県の食品に関する認定・認証制度をご存知ですか？（1つ選択）



(N = 1,253)

- ① どちらも知っている 18.2%
- ② アのみ知っている 11.3%
- ③ イのみ知っている 18.1%
- ④ どちらも知らない 44.2%
- ⑤ 無回答 7.8%

県版 HACCP を「知っている」と回答した人が 47.6% (H27 : 43.3%)、「知らない」と回答した人が 44.2% (H27 : 51.9%) という結果になり、前回の調査結果より認知度は上がっているが、まだ約半数以上の方がご存じでないという結果になりました。

ア



和歌山県食品衛生管理認定制度

より安全性の高い食品を消費者の皆さんに提供するため、食品製造・加工施設で取り組んでいる HACCP<sup>(※)</sup>に基づいた衛生管理を県が評価・認定する制度です。

イ



和歌山県生鮮食品生産衛生管理システム認証制度

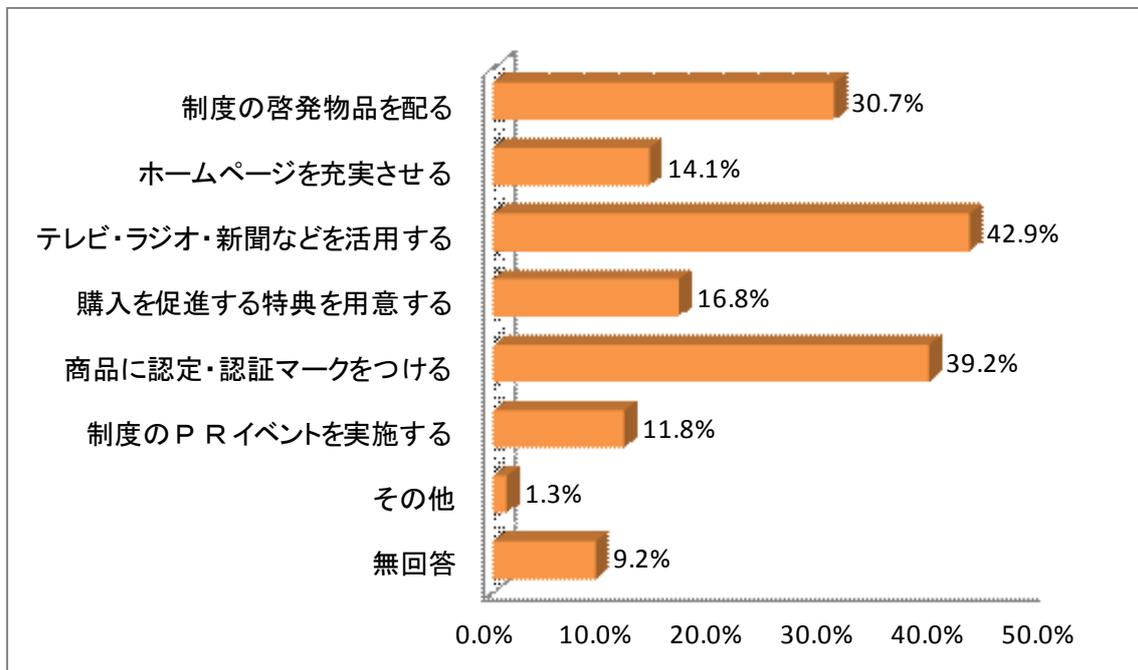
より安全性の高い生鮮食品（養殖魚、卵）を消費者の皆様提供するため、生産施設で取り組んでいる HACCPに基づいた衛生管理を県が評価・認定する制度です。

※HACCP（ハサップ）

安全で衛生的な食品を製造するための管理方法。

原材料の入荷から出荷までの工程における食中毒菌汚染や異物混入等をあらかじめ分析し、それを防ぐため、特に大切な工程を管理する食品の衛生管理手法です。

問13. 県の食品に関する認定・認証制度を知っていただくためには、どのようなことが必要だと思いますか？（2つ以内選択）



(N = 1,277)

多いものから順に、「テレビ・ラジオ・新聞などを活用する」42.9%、「商品に認定・認証マークをつける」39.2%、「制度の啓発物品を配る」30.7%という結果になりました。

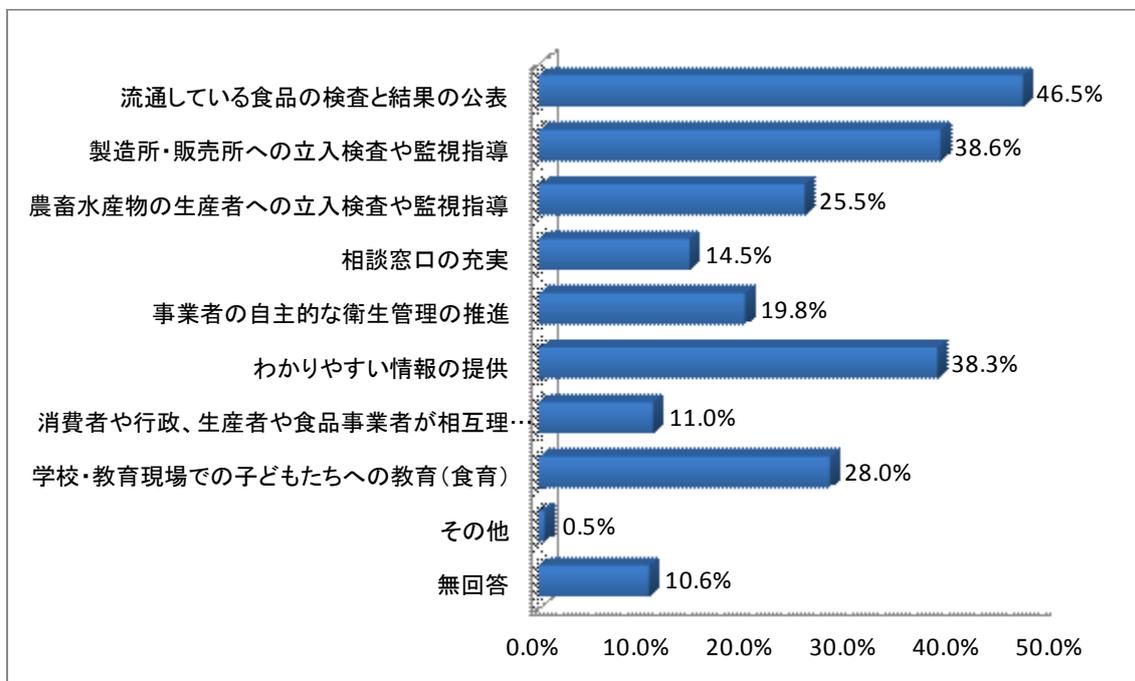
問9の「利用しやすい情報の提供方法」でも、「テレビ・ラジオ」および「新聞・雑誌」は上位となっており、PRや情報提供にはこれらのメディアの活用が有効であると考えられます。

#### ○項目「その他」の具体的な記述内容（その他意見等含む）

- 駅などでのチラシ、スーパーなどでのPRイベント（30代）
- 大手スーパーで説明会の実施（60代）
- お城やビッグホエールなどで食の祭典などをする。（40代）
- 学校、保育所、幼稚園など子どもに対して。（60代）
- 既存イベントでのブース展示等（30代）
- 市町村の文化祭での出展、スーパーやデパートでの販売（50代）
- 市報、県民の友を利用する、店頭でマークを大きく表示する。（60代）
- スーパーで認定商品を売るイベント（40代）
- 通行人の多い、例えば駅前とかで冊子やサンプル品を配るといいと思います。（60代）
- 認証を受けた施設の見学会（70代）

## (10) 食の安全・安心確保のために重要な県の取組

問14. 食の安全・安心を確保するための県の取組として、何が重要だと思いますか？  
(3つ以内選択)



(N = 1,277)

多いものから順に、「流通している食品の検査と結果の公表」46.5%、「製造所・販売所への立入検査や監視指導」38.6%、「わかりやすい情報の提供」38.3%という結果になりました。

また、今回の調査で新たに追加した項目である「学校・教育現場での子どもたちへの教育(食育)」については28.0%となっており、上記3項目について4番目となっています。

### ○項目「その他」の具体的な記述内容(その他意見等含む)

- 安全安心の競争原理が働くシステム作り。(40代)
- 個人が気を付けてもらう。(70代)
- 子供達への教育は大切と思いますが、子供に食事を提供する親の認識をしっかりとしていくことが大切。食の安全安心は、生活の基本となり、生活の質や貧困対策にもつながると思います。県の考えと市町村の取り組みが一体となり食だけでなく生活の課題として取り組んでいただければと思います。(30代)
- 食育を受けていない世代の方への情報発信(50代)
- 内部告発しやすい場をつくる。(50代)
- 免許証のゴールドカードのように無事故の業者をゴールドマークにする。(60代)
- 一般消費者への食品の安全に関する正しい知識の教育(食育)と啓蒙を食品関連事業者と協働して実施してほしい。(50代)

## ☆自由意見

- 若い母親に食の安全安心を健診などの時に教えてほしい、外食とか出来上がった食べ物が多いと思います。子育てルーム集まりなど常に話してあげる場所にチラシなどを用意する・公民館の集まりなど利用して話してあげるように。(60代)
- アニサキスや菌はやはりこわいので安心して生ものなどは買えない。(20代)
- あふれ過ぎていた食べ物に対する関心が薄いし大切にしないのが残念。安全性も大切だが、捨てない食べ方をしていきたい。(50代)
- 安全安心を守ることは重要だがその基準が曖昧になることが大きな落とし穴になると考え従業員には伝えている。(50代)
- 安全な食品を近くで手に入れたい。(60代)
- 生きていく上で食とのつながりはとても大切なので、たくさん知識をつけたいと思っています。(20代)
- 以前は安いものを選ぶことが多かったが、テレビなどの情報や友達との話の中で考えることもあり、選ぶ際には気を付けるようにしている。間違っただけのものや過剰な情報も入ってくるだろうと思うので、正しい適切な情報を入手したいと思う。(40代)
- いつも気軽に立ち寄れて食の安全・安心について相談のできる窓口が欲しい。(70代)
- いろいろ考えずとも、安全な食品を購入できるようになってほしい。(60代)
- 色々なこと、有害物質、農薬、食中毒菌、表示など実際に消費者にだけ伝わりやすく、購入段階では認識しづらい、こういうアンケートは良いと思います。(50代)
- いろんなスーパーが出来ているが、競争している感じで安ければ買うという人が多い中で、安心して食が出来ればうれしいです。肉類は特に注意して買っています。(80代)
- 飲食店での原材料表示などをもっと積極的に公表すれば良いと思う。学校などで食に関する講義を行えば、より食に関する理解が深まると思う。(20代)
- 飲食店での食材の扱いについて知りたい。店によってはすごく不衛生と聞くことがある。(30代)
- 飲食店では中華そばなど商品を作っている最中に、ほかの客の注文受けて代金の現金を受け渡したとき、手を洗わずそのまま商品を作っているのをよく見受ける。きわめて不衛生である。(70代)
- インスタント食品やファストフードなどの増加による健康への影響が心配(50代)
- 海のマイクロプラスチック汚染がこの頃気になります。(60代)
- うわべだけの安心みたいな気がします。本当に安心ですか？(60代)
- 栄養状態のみならず汚染された食料でないか、保存は適切かなど気にして食生活を送っている。(60代)
- 栄養の摂りすぎに注意する時代となり、体に良いもの、積極的に摂りたいものを選択し、安全はもちろんのこと、過剰摂取にならず、かつ必要なものが不足しないように気をつけたい。そのための知識をつけたいと思う。(50代)
- 大手スーパーの衛生管理も必要ですが、地域の小売店にも目を配って管理を徹底してほしい、特に抜き打ち検査をお願いしたい。期限切れ多い。(70代)
- 海外産(特に中国産)の現地での安全性はどのようになっているかが伝わってこない。(40代)
- 海外製品については中国産は購入しないようにしており、外国の物は生産メーカーを目安にしている。ヨーロッパからの物もあるが、原産地表示は必ずしてほしい。質問の中に放射性物質があるが東北の3, 11を念頭においているとしたら愚問である。(70代)
- 海外で作られて売っている中で有機と表示されているのが(有機栽培、有機農法)ありますが本当に大丈夫ですか？アメリカではマーガリンは一切売られていないのに日本でなぜ売っているのでしょうか、考えられません。(70代)
- 外国の事をTVで見たりすると、日本はそのまま水も飲めるし食品に対して不安なく買える物が出るのでありがたいなと思います。ただその元になるところは(水源、生産所)私たちにはわからないので、それはしっかり管理して、何かあったら隠さず公表して正して欲しいと思います。(70代)
- 外食、弁当などに使用している食材が安全かどうか不安になり、特に弁当の値段が安いものは中国製品が多いと思い、買うことができません。安心して食べれるよう表示管理

ができていれぱと思います。(50代)

- 外食が多い時代だからどのようなものが使われてるか心配。自分たちの口にどんなものが入ってるかわかるようにしてほしい。(30代)
- 外食の機会が多いですが、産地が分からないのが不安です。(70代)
- 加工食品やお店で製品として売られているものには食品表示がきっちりされて購入の際には、それを頼りにしているが、デリカ食品、外食で頂くものには全くわかりません。うちでは国産品しか扱っていません。と表示している店もありますが、殆どは表示されていないのが実情です。外食産業の食の安全について不安を持っている者です。食品表示についても100%信用できません、偽装って多いようですから。(60代)
- 家族の健康を預かる主婦として、食中毒に侵される事のないよう台所の衛生、食品管理に十分気を付けてきました。また免疫が低下しないよう食事の面でもバランスを考えています。食品添加物、農薬汚染が気になってます。国内の物は安心といわれますが、これからの子供達のため厳しく規制してほしい。(70代)
- 学校教育における食育について郷土の食材や栄養の学習も大切だが現実社会で問題となっている内容の深い食育が必要だと感じる。講師などその担い手の養成、レベルアップが急がれます。(50代)
- 企業のモラル低下で偽装などが多く大変不安です。県の情報発信を多くし、県民にも知らせる、学ぶことを提供してください。(60代)
- 気にせず買い物しても安心安全という世の中になることを希望します。このアンケートを機に食生活の意識を高めなければと思う。県のホームページを覗いてみます。(60代)
- 気まぐれで庭にちょっと野菜を作っていますが、なかなか食べられるものが出来ません。大きくおいしく育てる生産者のご苦勞を思い、感謝して食べています。(60代)
- 鶏卵生産までの工程・海産物の採取場所が心配・農産物の土質が化学物質で汚染されていないか・牛乳、チーズの生産工程の安全点検ができてるか。(80代)
- 健康食品のテレビ・新聞・折り込み広告等は本当に効果があるような宣伝でつい買ってしまう？(誇大宣伝の取締強化)(70代)
- 健康によくない添加物が基準内であればオッケーとなっている食品が多くあるそうです。同じものを続けて食していればと思うと心配。(80代)
- 高齢者の仲間入りするまでは食は空腹を満たせば足りるものと考えていましたが、後期高齢者となって足の筋肉の衰えや体調に不安を感じるようになって初めて食の健康管理の必要を悟りました。食の健康上の効用知識を広めたいと思いますので県におかれましてもより一層のPRをお願いします。(80代)
- 子どもができてからとても注意して購入、調理するようになりました。(40代)
- これからの時期、O-157などが流行するので注意したいです。子どもからの感染(保育園などの流行)を教えて欲しい。(30代)
- 最近、食あたりでおなか痛で困った事があったので、食品に対して新鮮さに気を付けるようにしています。(60代)。
- 最近豆腐をにがりで固めている物をさがすのに苦勞する。値段より品質・安全重視の世の中になるようには、やはり根本的に今の世の中を少しずつ変える必要がある。(40代)
- 最近一人暮らしや夫婦だけの生活が多い中、お惣菜やすぐ食べられるものを買う人が増えているように思います。どういう材料や調味料を使っているのか一度作っている所を見てみたいと思います。立入り検査をして調べてほしい。(60代)
- 産地表示に疑問、輸入食品についての税関検査のあり方(国の食文化や意識の違いがあるなど国産生産者が苦しい)(70代)
- 自給自足が最も望ましいであろうが、とうてい叶わないなら、せめて地産地消に近づきたいので、そういう販売所がもっと増えてくれるとうれしい。反面、あまり神経質にならずとも何てことなしと思う。(60代)
- 仕事の都合上、朝に料理を作り夜まで保存するが、保存方法があいまいで不安になる時があります。(30代)
- 主人も発病してから自動車の免許も返納し、自分も後期高齢者の2人暮らしです。ここ数年で近くのスーパーも閉店、大型薬局やコンビニばかりで私たちをとりまく環境もすっかり変わりました。買い物も自転車を利用している私にとって、今年のように暑かったり台風の接近も何回かあると、食事は自分で調理と思っているのですが、不安になりコンビニで手のかからない食品や年齢のせいもあり柔らかい食材を買ってしまいます。

食品ロス・削減等テレビで放送されています。備蓄と思って買ったものも消費期限、賞味期限が切れて廃棄処分にする事が多くなりました。このアンケートを機会にもう一度食に対して考えてみたいと思います。(70代)

- 出荷間近の果物などを消毒してるのをよく目にします。店頭に並ぶためには商品価値を上げる必要があるのか。安全性には問題があり野菜や果物などはできるだけ自家栽培したものを使うようにしています、農業経営も成立しながら食の安全も確保できる方法を研究実践せねばと思う。(60代)
- 主婦にとって家族の体をつくる大事な食。主婦目線に訴えるような広報誌活動などお願いできればと思う。(50代)
- 食中毒に注意しようと言われるが、何をどんなに注意するのか明確に情報を発信してほしい。(70代)
- 食に関してすごく個人差を感じます。健康志向の人もいれば全く気にされない人もあり、輸入品を気にする人もあれば安さを求める人もいます。(30代)
- 食についてあまり深く関心をもっていませんでしたが、このアンケートを読んでいるうちに食の大事さ、怖さを感じました。(70代)
- 食について知識不足を感じます、生産者の方との交流など機会があればいいと思う。(60代)
- 食の安全・安心が最も重要だと思いますが。テレビ等で「私の店の肉は安全なので生で食べても安心です」等の言葉が聞かれるのはやめてもらいたい。(70代)
- 食の安全性について、私ども地方のスーパーで主に農畜水産物を購入していますが、素人目ですが鮮度も良く消費、賞味期限に近いものもなく毎日安心して購入しています。数十年前から比べると、国県の指導もあるので食の安全性が格段とよくなり口に入れることができ有難いです。(60代)
- 食のことをとても気にかけている世帯と健康の害になりそうなものを買って入っている世帯に二極分化していると思う。(40代)
- 食は体を作る重要な原料であるので、いずれ自分の血肉になるものと考え慎重に選んでいる(つもりである)。学校に「食」の勉強をする場所、機会を設けるべきである(中高生が間違った食の知識で過度なダイエットなどに陥る危険性がある。そんな例を日常で見てきた)。放射性物質に対し正しい知識を身につけるべきである(「よく分からないけど怖いもの」として過敏になりすぎである)。(20代)
- 食品の安全性はいつも気になりますが消費期限や賞味期限、国内産かどうかその程度で日々買い物をしてしまっています。もう少しいろいろな面から考え、選びたいと思います。(60代)
- 食品の産地偽装や、添加物の問題、特に中国から輸入されてくる物品について不正なものが使われてないか十分監視してほしい。また妻などは未だに BSE を気にして牛肉を食べようとしないので、現在流通している牛肉は国産、輸入品を問わず、安全であることを再度周知してほしい。(50代)
- 製造所や販売所の責任が大きいと思う。安全なものを提供していただきたい。消費者にもものを見分ける能力を求めるのは酷だと思う。プロの仕事をしていただき安心安全なものを市場に流通させてほしい。店に並んでいるものは何を食べても大丈夫でないと困る。(50代)
- 世界では食糧不足で8億人以上が飢えに苦しんでいる人がいる中、先進国では食品の廃棄ロスが大きな問題となっている現状である。家庭では勿論勿体ない精神で食品団体も賞味期限の延長も含め早急に何らかの措置を行うべき。(70代)
- 世界の流れでネオニコチノイド系農薬の規制強化を進めているのに日本は逆。(40代)
- 立ち入り検査や監視指導を徹底することで法令順守の精神が醸成される。違反はすべて公表すべし。(60代)
- 地域社会の変化に伴い、楽しいはずの食事が高齢になるにつれて3食作ることが苦痛になってきてると話される方もいます。長寿は大変喜ばしい事です。消費者が食の安全安心を確保するため、より一層生産者や食品事業者各方面の方々が安全に提供くださいますよう県からの監視ご指導お願いします。(70代)
- 日本の食自給率は40%を切っている中、海外からの輸入に頼っている。その安全性はどれだけ高いか消費者がどう確認できるか疑問で不安。それぞれの家庭の味、おふくろの味がなくなりつつあるのも残念である。スーパーに行けば惣菜が並んでいる、この材

料もどこの国のものが使われているか不安を感じる。(60代)

- 農産物の生産者が直接の売り場などに持ち込んでいる品物の残留農薬や衛生状態が気になる。(70代)
- 販売業をしていますが食品類がいろいろあり消費期限と賞味期限の違いを考えずお客様は判断します。世の中がものにあふれ、ものや食品を大切にしない世の中になっていると思う。何が大切か考えなくては。(60代)
- 昔と違い流通している食品は多く、生産者だけでなく消費者が確かな知識を持って商品を選択しないといけない時代ですので、県からの専門的な知識を分かりやすく消費者に知ってもらうことをお願いします。(60代)
- もうすぐ子どもが生まれるので、特に気にするようになりました。表示は必ず正確であって欲しいです。(30代)
- 野菜の無人販売や生産者が自ら商品を店に陳列する物の安全性に不安を感じます。放射汚染されている食品は以前は新聞等で公表されていたが最近その情報が目につかないことは全て安全性について信用できるのでしょうか。(70代)
- 表示されている内容も 100 パーセント信じていいかわからない時代だと思います。また沢山の種類の食材が入っている場合、加工された場所しか表示がないので、実際どこで収穫された食材かもわかりません。なので神経質になっても仕方ないと思っています。(50代)